

；
高齢になっても住みやすい街に
～ハッピー老後ライフ～

《高齢者をたすけ隊》



(発言内容)

- 今から「高齢者をたすけ隊」の発表を始めます。お願いします。
- 私たちのタイトルは「高齢になっても住みやすい街に～ハッピー老後ライフ～」です。

大野市の高齢化率の推移



※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合（%），年齢不詳を除いて算出

※図中の緑の点線は、前回2013年3月公表の「将来人口推計」に基づく当地域の高齢化率

© jp.gdfreak.com

（発言内容）

- はじめに、このグラフを見てわかる通り、大野市は全国平均よりも高齢者の割合が多い町です。
- そこで、私たちは高齢者が住みやすい街づくりということに重点を置きました。



(発言内容)

- 高齢者が住みやすいと感じる街の特徴として、これらの4つがあります。
- そのなかで、私たちは1の「移動・買い物がしやすい」に注目しました。



(発言内容)

- しかし、大野市の現状として、街にスーパーが密集しており、

大野市の現状

街から離れるとスーパーなどが無い



高齢者は移動が大変
車がないと生活できない

(発言内容)

- 少し離れるとスーパーなどがなく、その地域に住んでいる人たちは移動が大変です。

- ・車がないと買い物に行けない
- ・冬には積雪により移動が困難

免許返納が進まない

- ・高齢者による事故が起こる

(発言内容)

- さらに、冬には積雪により移動が困難で、車がないと買い物に行くことができません。
- それによって社会問題にもなっている、高齢者の免許返納が進まず、高齢者による事故が起きてしまい、それを防止することができません。

家の近くに 買い物ができる場所が 必要!!

(発言内容)

- そこで私たちは、家の近くに買い物ができる場所を作る必要があると考えました。

再編検討委の報告書案概要



※統合した学校は の校舎を活用する

(発言内容)

- そこで、大野市小中学校再編計画で、廃校となってしまう校舎に目を付けました。
- 大野市小中学校再編計画では、中学校を2024年度に2校、小学校を2026年度に7校にすることが検討されています。

〈私達の提案〉

大野市小中学校再編計画で
廃校となってしまう校舎の一部を
生活必需品を買える場所にする。

(発言内容)

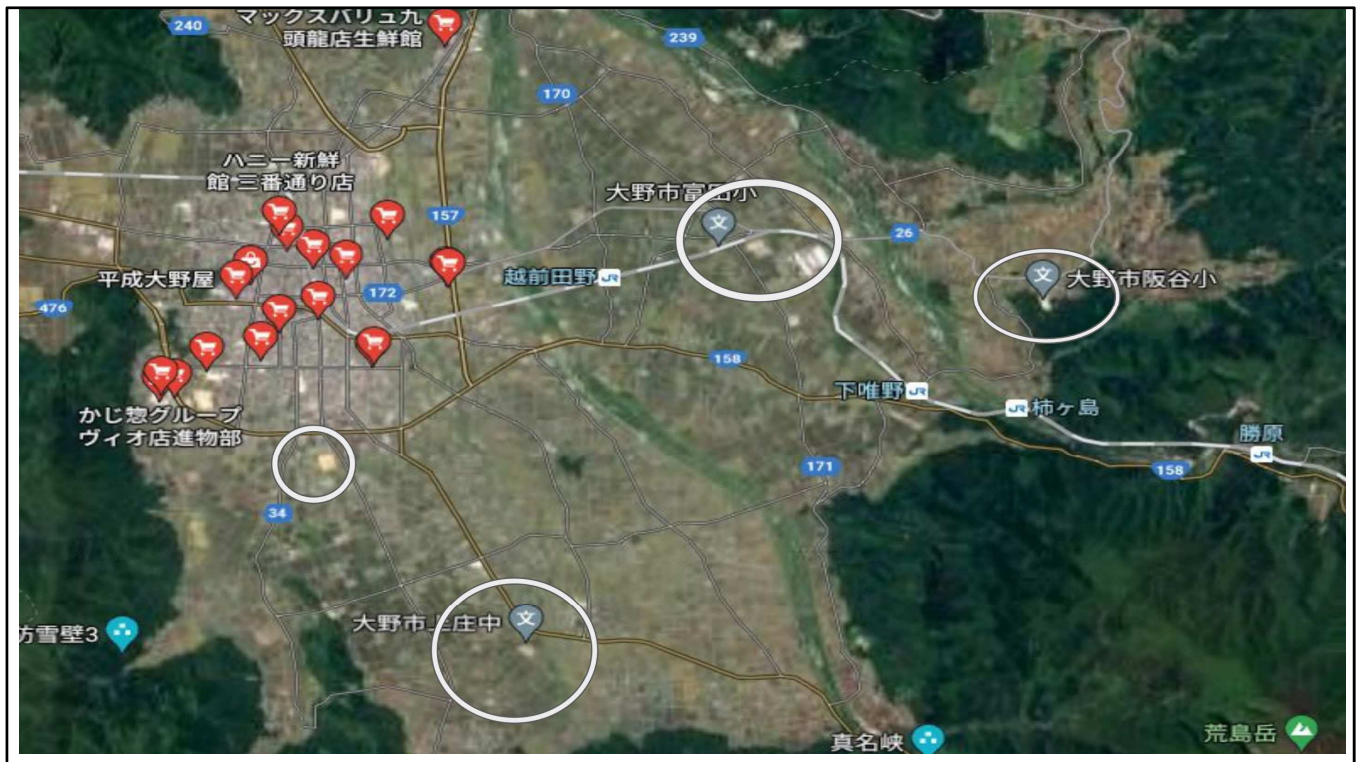
- そこで私たちは、大野市小中学校再編計画で、廃校となってしまう校舎の一部を生活必需品が買える場所にすることを提案します。

メリット1

学校は**一定の地域に1つ**
程よい距離にある

(発言内容)

- 廃校で行うメリットは、4つあります。1つは、学校は一定の地域に1つであり、程よい距離にあります。



(発言内容)

- これは先ほど見てもらったスーパーマーケットの分布図です。
- これに廃校となってしまいう小中学校の校舎を照らし合わせると、大野市中、どこでも不便なく、買い物が行けるようになります。

メリット2

学校には、
親しみや思い入れがある

(発言内容)

- 2つ目のメリットは、学校には親しみや思い入れがあるということです。
- 学校は子どもだけでなく、大人や高齢者にとっても地域の運動会などで集まる場所でもあり、何より卒業した場所であるため、親しみがあり、思い入れがある場所です。
- 何年、何十年ぶりに、自分の学び舎を訪れて、昔の記憶を思い出しながら懐かしめるのではないのでしょうか。

メリット3

交流の場になる

(発言内容)

- 3つ目のメリットは交流の場所になる、です。

集いの場は貴重であり、重要なもの！

- ・人との関わりを作ることで孤独死を防げる
- ・安否確認につながる

(発言内容)

- 交流の場を設けることは、一人暮らしの高齢者や家族以外の関わりが減っている高齢者にとって必要であり、重要なものです。
- また、人との関わりを作ることで孤独死を防げたり、安否確認にもつながります。

メリット4

話題性がある

(発言内容)

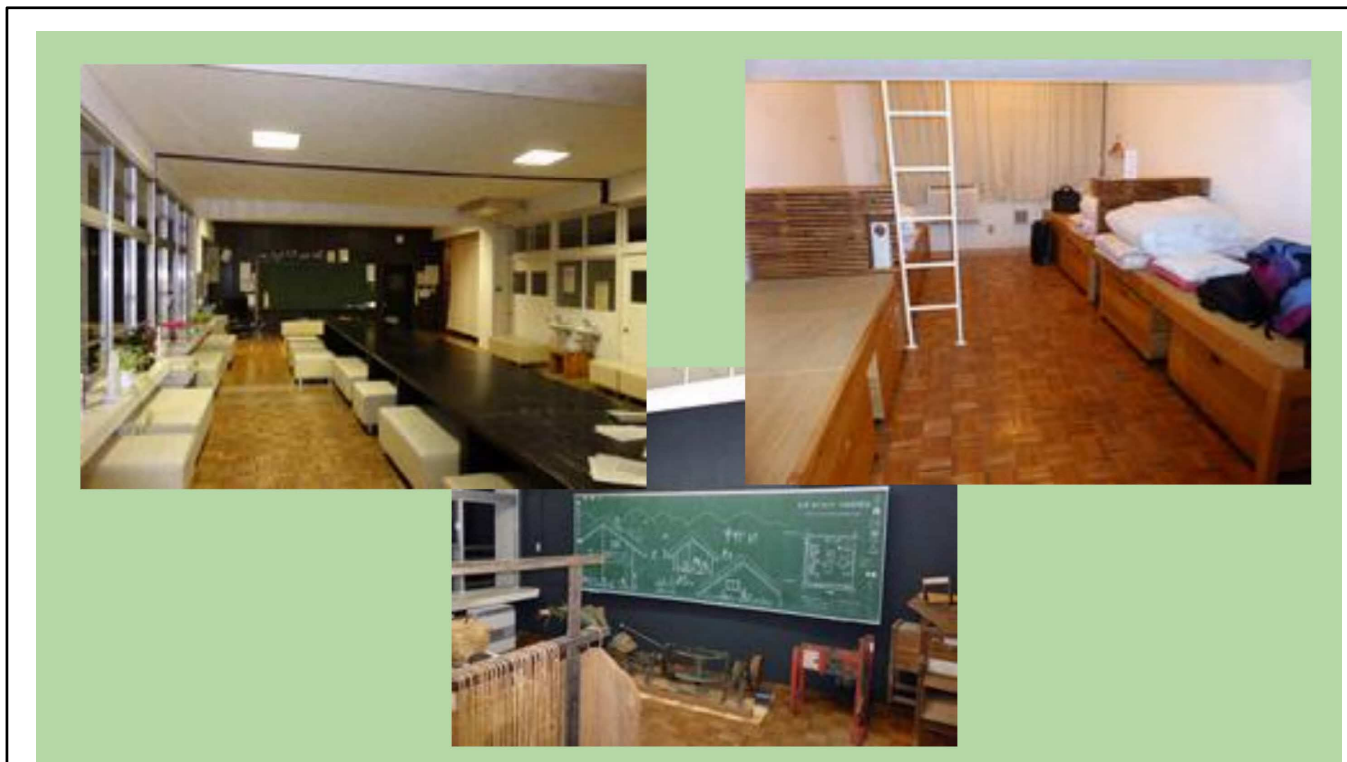
- 4つ目のメリットは話題性がある、です。廃校活用した施設は、話題性があります。さらに今の時代はSNSが普及しているので若者や県内外の客の集客にもつながります。

先行事例① 新潟県上越市浦川原区住『月影の郷』



(発言内容)

- 実際に廃校を活用した他県での先行事例を紹介します。
- 1つ目は、新潟県上越市浦川原区にある、「月影の郷」です。
- 月影の郷は、私たちの提案する、生活必需品の購入などはできませんが、宿泊体験交流施設として活用できています。



(発言内容)

- 多数のプロジェクトメンバーや複数のチームが作り出した学校は、趣のある小学校名を残すとともに元教室を改装して学校に泊まるという懐かしさと、新しさを同化させて2005年に再生オープンしました。

先行事例② 高知県高岡那津市『森の巣箱』



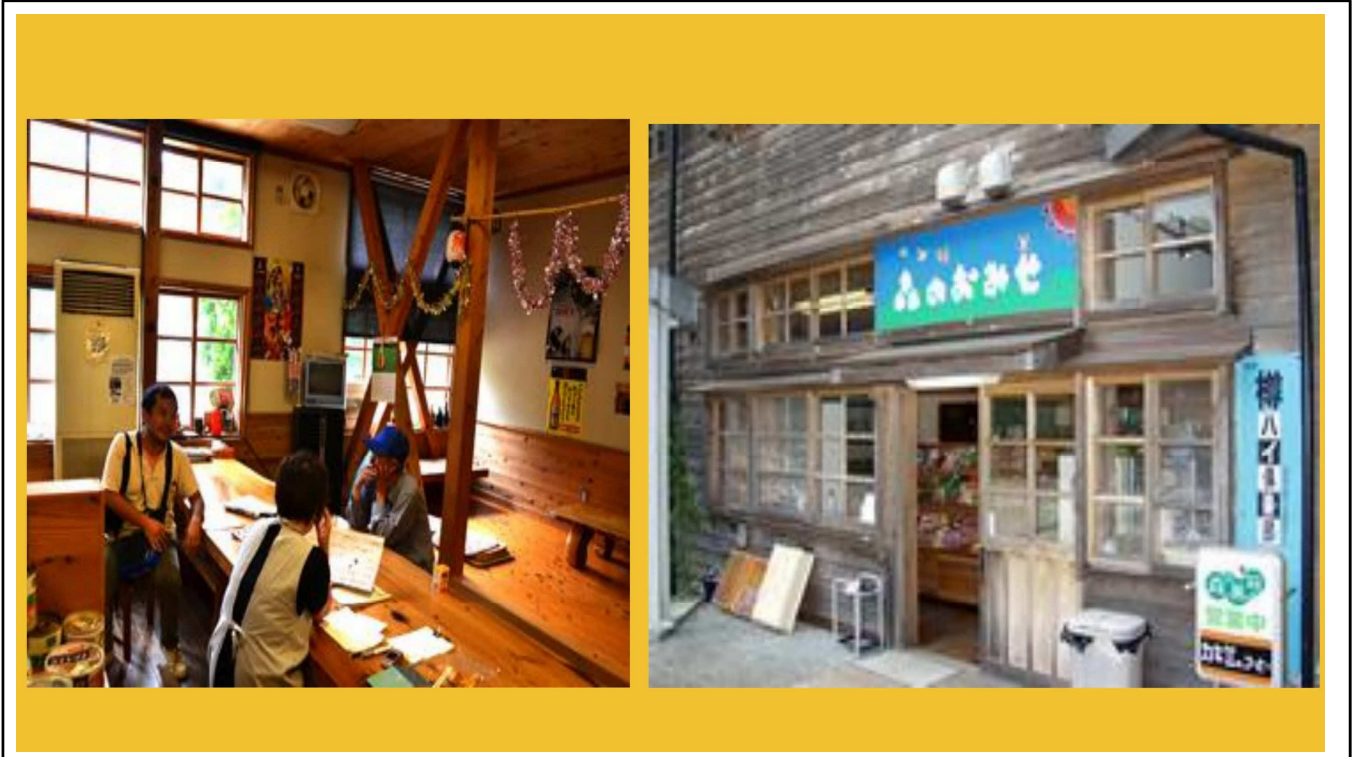
(発言内容)

- 先行事例2つ目は、高知県高岡那津野町にある「森の巣箱」です。



(発言内容)

- 森の巣箱には日用品、食品の直売所機能を有した集落コンビニや食堂兼居酒屋などが開設され、二階は宿泊できるよう和室にリノベーションされています。



(発言内容)

- 森の巣箱は大学生や集落の人が運営を行っていて、集落全員がオーナーとなっています。
- また、集落全員が従業員としての意識を高く持っています。

森の巣箱紹介動画

<https://youtu.be/yotF-3oGZY0>

(発言内容)

- 森の巣箱はユーチューブに紹介動画を挙げているので一部紹介します。

(動画放送)

〈まとめ〉

これらのことから、私達4班は、

廃校舎の一部を使い、

その場所を生活必需品を買える場所、高齢者にとって集いの場所にする。

ということを提案します。

(発言内容)

- 高齢者の住みやすい街のため、廃校を活用しますが、学校に泊まれる、給食が食べれるなどの観光施設として活用でき、多くのメリットがあると思いませんか。
- これらのことから私たちは、廃校舎の一部を使い、その場所を生活必需品の買える場所、高齢者にとって集いの場所にすることを提案します。

ご清聴ありがとうございました。

(発言内容)

- ご清聴ありがとうございました。